

県内各地で奉仕作業

士会出水支部青年部会

幹線道路の空き缶拾い



作業を前に写真に納まる参加者
＝出水市の出水市役所で

県建設士会出水支部
(田中秀夫支部長・柳田中工務店)の青年部会
(田中秀一部長・秀建築設計事務所)は25日、出水市内のメインスト

リットで空き缶やちり拾いの奉仕作業を実施した。同日は、出水市役所の駐車場に部会員17人が集合して出発式が行われ、田中部会長が「毎年この時期に実施している奉仕作業ですが、途中から2人ほどは合流する予定で、車道に出ることもあるかと思いますが、事故やけがのないようによくお願いします」と挨拶の後、のぼり旗と奉仕作業中の横断幕を取り付けた軽トラック2台が伴走



多くの子供達も参加した奉仕活動
＝鹿児島市の磯海水浴場で

九州電力鹿児島支店
水浴場で同支店社員及びは25日、鹿児島市の磯海水浴場、その家族約40人が参加し

磯海水浴場を清掃

しながら、ビニール袋を歩道植栽や空き地に投げ手に同市役所前から広瀬橋方向へ向かい、出水の大橋までの片道約2.5kmの辺で休憩した後、反対側

歩道を市役所前まで同様に戻り、引き返して往復約4kmの作業を午前中で終えた。清掃を終えた参加者は「きれいになった海岸は、気持ちがいい。今後もボランティア活動に参加したい」と笑顔で話した。

九電工加世田営業所

福祉施設 照明メンテナンス等

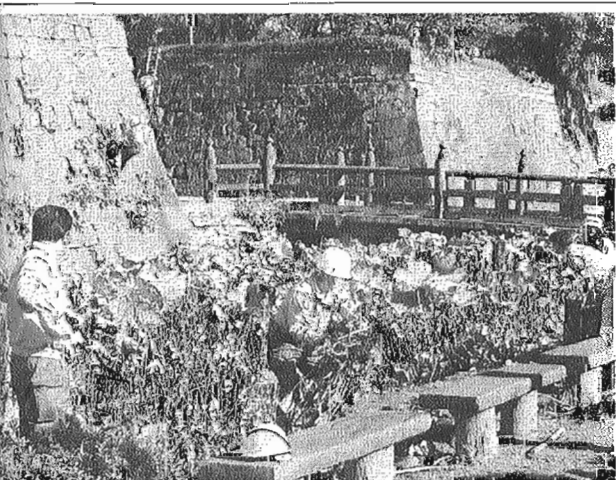


手際よく作業を進める所員ら
＝大浦町の現地で

（本田豊実所長）は24日、毎年恒例の「さわやかコミュニティ旬間」で行う地域ボランティア活動として、川辺郡笠沙町の介護老人保健施設さつま野菊園（松岡隆樹施設長）のメンテナンス作業を、同所員ら約40人が参加して実施。善意のボランティアに所員らは心地よい汗を流した。この旬間は、同社が「社会的信頼を得る活力ある企業づくり」をスローガンに、地域社会に貢献することを目的として、例年開催されている。35回目となる今回は、笠沙町の介護老人保健施設さつま野菊園の周辺清掃と、施設内のメンテナンスなどを実施した。午後1時30分、現地に集合した所員を前に本田所長が「日頃からの地域に対する感謝の気持ちを込めて、けがや事故には十分注意して精一杯取り組んでいただきたい」と激励した。同日は、作業を前に宮下格二同支店総務部長が「海水浴シーズンは終わっていますが、心を込めて清掃しましょう」と挨拶。続いて、作業上の注意を行った後、作業を開始した。砂浜一帯には波で打ち寄せられたペットボトルや空き缶、ビニール袋、流木などのほか、花火の燃えかすやタバコの吸い殻なども多く見られ、参加者らは一つ一つ分別して引き返して往復約4kmの作業を午前中で終えた。清掃を終えた参加者は「きれいになった海岸は、気持ちがいい。今後もボランティア活動に参加したい」と笑顔で話した。

九電工鹿児島支店

黎明館の雑草除去等



社員総出で行った奉仕活動
＝鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

九電工グループが社会貢献活動の一環として、毎年実施するさわやかコミュニティ旬間の25日、同社鹿児島支店（小山鉦一取締役支店長）は、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館敷地の鶴丸城跡地城壁等で雑草除去作業等を行った。同日は早朝から、鹿児島支店の社員約150人が鹿児島市の県歴史資料センター黎明館敷地に集

合。1組あたり約5人の18班編成で、濠の中の水草取りをはじめ、北御門や御桜門などの入口周辺の清掃を行ったほか、ロープやハンシグを用いて、石垣の城壁に伸びる雑草の除去に汗を流した。山下幸春副支店長は「35年目という節目の年から、歴史ある黎明館の清掃を計画した。今後も社会奉仕活動を続けていき、地域に密着した地元住民に愛される企業を目指していきたい」と話した。

奄美広域組合へ益金寄付

県建設業青年部会

県建設業青年部会（新谷清美会長）は27日、復帰50周年を迎える奄美広域事務組合へ金一封を寄付、代理で県建設業協会奄美支部青年部会の役員らが同組合管理者の平田隆義名瀬市長へ手渡した。今月17日に役員研修旅行で県建設業青年部会の各支部役員20人が



名瀬市長へ金一封を手渡す安田氏（左）ら
＝名瀬市役所市長室で

「公共工事の予算は国、県、市ともに削られる厳しい状況が依然として続いている。今後は、業界もこれまでとは違った手法や技術が求められ、また行政まかせではなく自ら提案する実行力も必要となる。若い人が将来の公共工事の在り方を真摯に受け止め、しっかりと考えた考えを持って対応してほしい」と激励した。それに対し安田副会長は「われわれの世代でどう発展させていくかが大きな課題となる。一致協力して地域に密着した行動を念頭に置き努力したい」と答えていた。